令和６年度　全国学力・学習状況調査（令和６年４月 18 日実施）

三田市の結果概要

「自分が好き、人が好き、このまちが好き、
夢にむかって歩むさんだっ子」

をめざして

三田市教育委員会

本市の結果をお知らせします！

令和６年４月18日に文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を行いました。

今年で16回目を迎えるこの調査は、文部科学省が全国の児童生徒の学力や学習状況を調べ、義務教育の成果と課題を確かめ、改善を行うために実施するものです。

三田市では、これまでの調査結果も活用し、分析を進めました。

本市の「国語、算数・数学」と「質問紙調査」についての分析結果についてお知らせします。

１　本調査のとらえ方

三田市教育委員会では、この調査の結果を受け、三田市学力向上推進委員会を開催し、三田市の結果分析を進めてきました。三田市の平均正答率は、過去15回と同様に、小学校・中学校ともに全国・県平均を上回り“良好”でした。

また、「教科に関する調査（国語、算数・数学）」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」との関連についても分析した結果、

①「朝食を毎日食べている。」

②「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。」

③「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。」

④「これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。」

⑤「タブレットなどのICT機器を活用して、友達と考えを共有したり比べたりしている。」

などと回答している子どもは、平均正答率が高い傾向が見られました。

さらに、各学校においても結果を分析し、学力向上に向けた様々な取組の成果と課題を明らかにし、今後の改善につなぎます。

次代を担う子どもたちが、基本的な生活習慣や学習習慣を身に付け、健やかに育ち、心豊かに生きていくためには、学校と家庭、地域の協力や連携がとても大切です。

三田市教育委員会は、調査結果から見えてきた成果と課題を踏まえ、子どもたちの『生きる力』を育成していくための取組を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

２　調査の概要及び公表方法について

（１）調査の実施日　令和６年４月 18 日（木）

（２）調 査 の 対 象　小学校６年生（市内 20 校 973 名）

中学校３年生（市内　８校 809 名）

（３）調 査 内 容

①教科に関する調査（国語、算数・数学）

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実施し評価・改善する力等

※調査問題では、上記２点（知識、活用等）を一体的に問う

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

（４）公表方法について

本結果概要では、全国や兵庫県の状況を踏まえた上で、教科と領域ごとの結果と、本市の子どもたちの優れている点やつまずきが見られる点について明らかにすると共に、学びのポイントについて総合的に分析した結果の一部を記載しています。

同様に、子どもたちの学習や生活に対する意識や実態等について、「教科に関する調査（国語、算数・数学）」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の二つの結果をもとにした、「児童生徒質問紙調査の結果と教科調査とのクロス集計分析」を記載しています。

また、国・県においては、細かい桁によるわずかな差は、学力面での実質的な違いを示すものではないと考えられるとして、各教科の平均正答率は整数値で公表しています。

三田市もこれに準じ、各教科及び領域の平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数値で公表します。ただし、質問紙の数値については、従来通り、小数点以下第一位の数値を公表します。

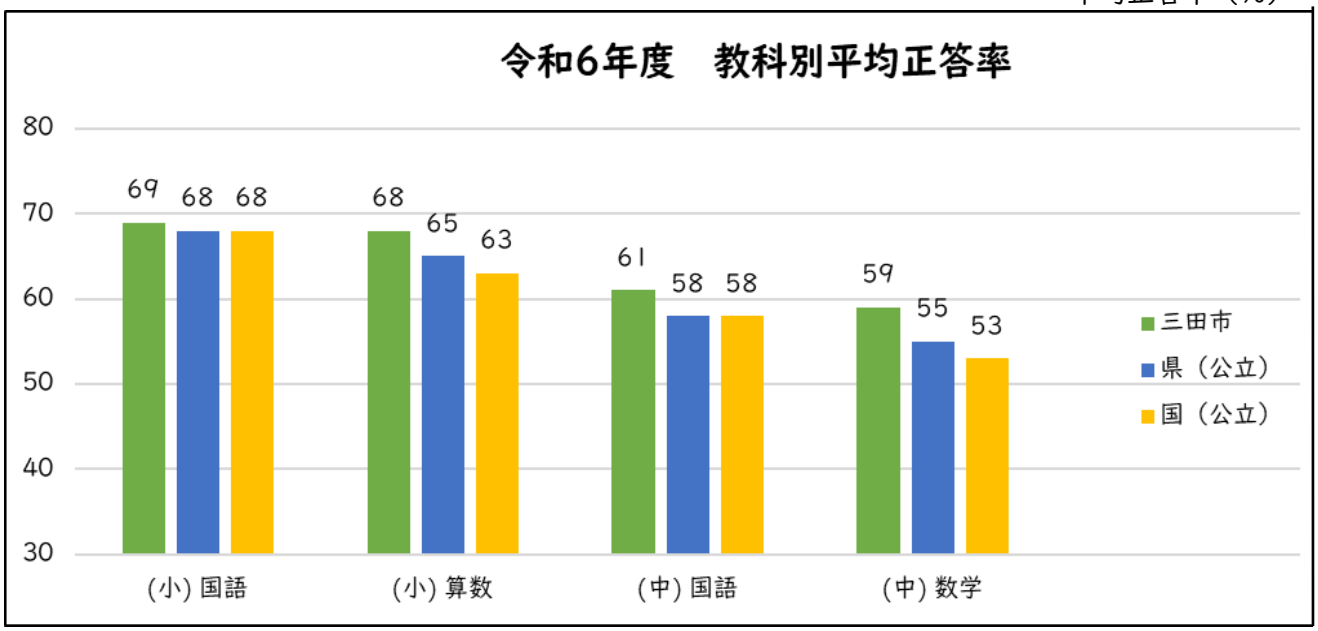
3　子どもたちの学力の定着状況について

「国語、算数・数学」全体の調査結果

全国・兵庫県の状況を踏まえ三田市の現状を分析したところ、結果は

良好でした。

平均正答率（%）

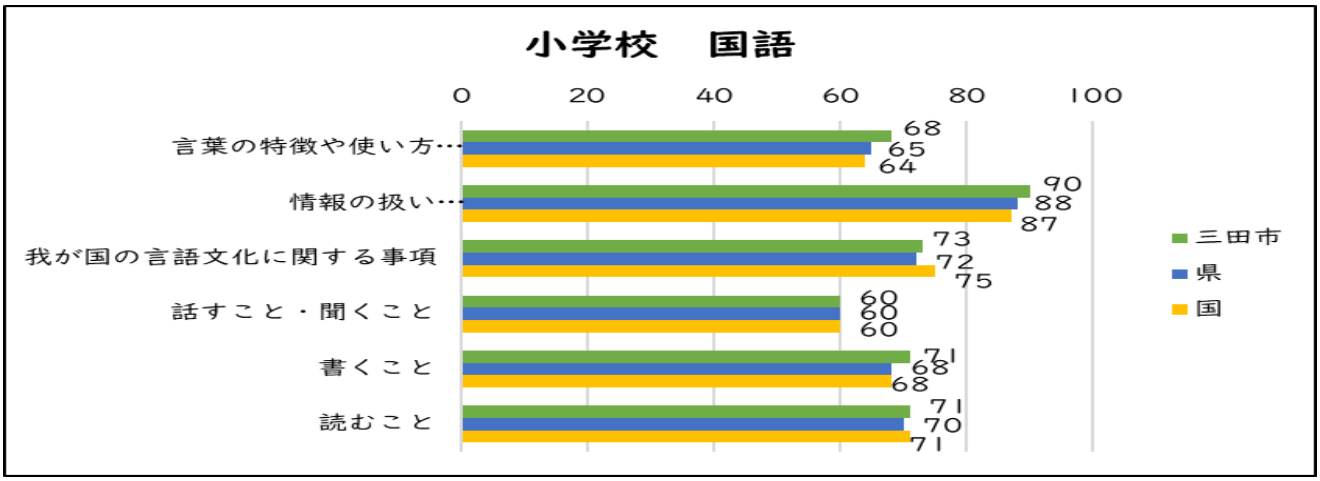


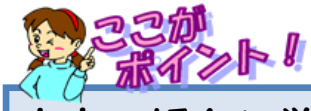
本市の傾向

※国語、算数・数学の全てにおいて、全国・兵庫県の平均正答率を上回っています。

- **小学校国語（全国平均より＋１ポイント）**
- **小学校算数（全国平均より＋５ポイント）**
- **中学校国語（全国平均より＋３ポイント）**
- **中学校数学（全国平均より＋６ポイント）**

① 小学校：国語





本市の傾向と学びのポイント

※「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の全ての分野で全国・兵庫県の平均を上回っています

【よくできていること】

- 目的や意図に応じて集めた情報を分類整理し、言語活動に生かすこと
- 叙述を根拠にして、人物の相互関係や心情を読み取ること

【課　　題】

- 根拠となる事実と意見を区別して、考えが伝わる文章を書くこと
- 資料を活用して、考えが相手に伝わるように表現を工夫すること

学びのポイント

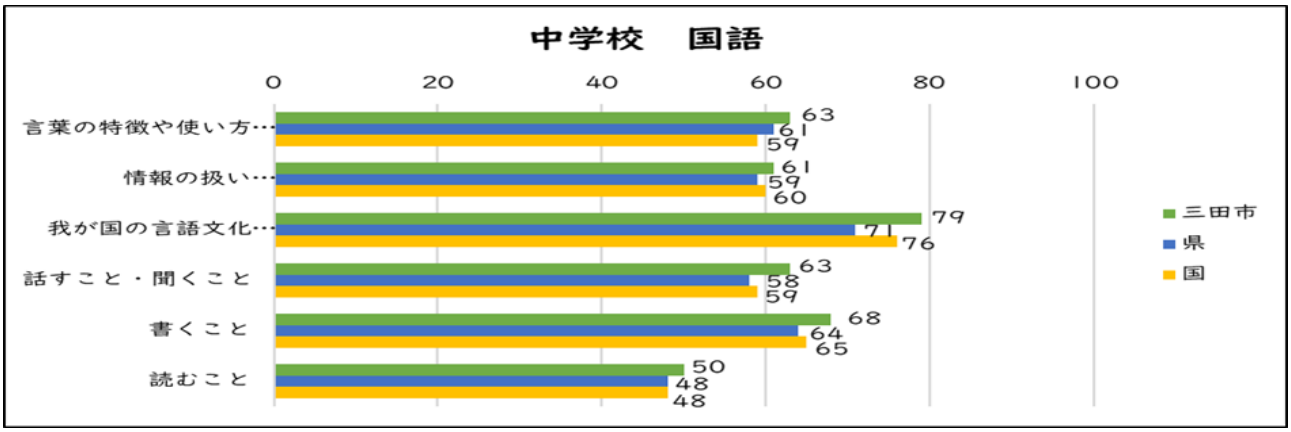
①考えが伝わるように、伝え方の工夫を意識して書こう

②伝えたいことの根拠となる効果的な情報を集めて、取捨選択する力を身につけよう

・表現活動をするときには「どのように伝えれば、自分の考えが相手に伝わるか」と意識することが重要です。その意識によって効果的な伝え方を考えるようになり、伝える力が上達します。

・説得力を高めるためには、根拠となる情報を示す必要があります。「どのような事例を選んで示せば、相手を納得させられるか」「相手が知りたいのはどんな情報か」といった観点で、効果的な情報を取捨選択する習慣を身につけましょう。

② 中学校：国語



本市の傾向と学びのポイント

※全ての領域において全国・兵庫県の平均を上回っています

【よくできていること】

・具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること

・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること

【課　　題】

① 話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること

② 文章と図とを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈すること

学びのポイント

①書いた文章を読み直し、推敲する習慣を身につけよう

②根拠となる叙述に線を引くなど、叙述をもとに考えることを習慣にしよう

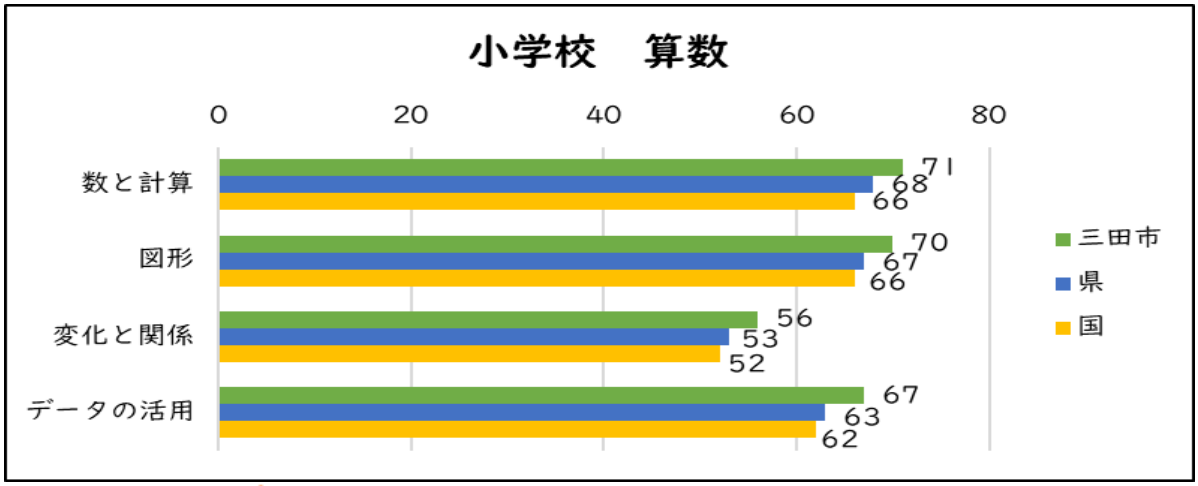
③要点を聞き取るために、常にメモを取ることを心がけ、相手に伝える際には、状況や場面に応じた話し方を意識しよう

・１人１台端末を活用しながら、互いの文章を読み合いましょう。

・文章の種類を意識し、キーワードやキーセンテンスに着目することを習慣にしましょう。

・学校図書館・公共図書館を利用し、電子図書も含め、活字に触れる機会を増やしましょう。

③小学校：算数



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています

【よくできていること】

・数量の関係を、□を用いた式に表すこと

・表やグラフを読み取り、必要なデータを取り出したり分類・整理したりすること

【課　　題】

① 速さを捉えるために、道のりと時間の関係について考察すること

② ２つの図形の共通点を見つけ出して計算すること

学　び　の　ポ　イ　ン

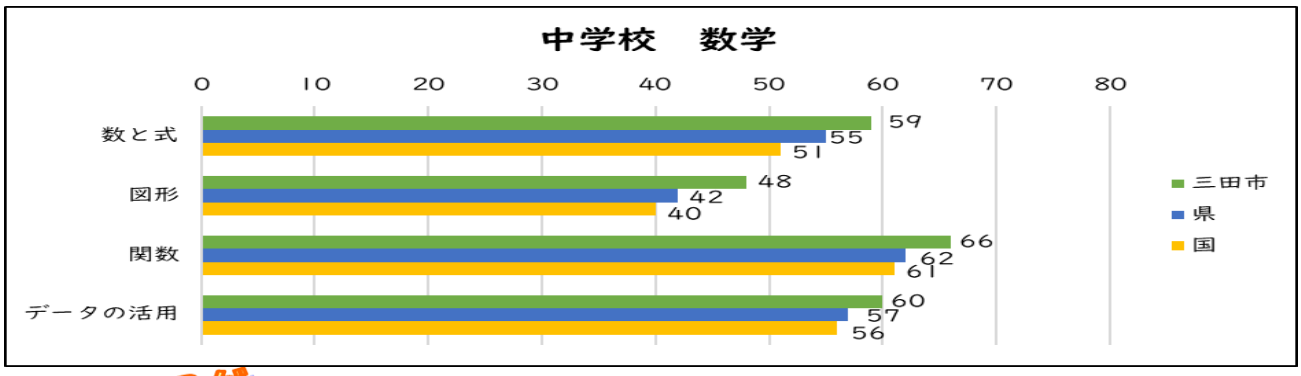
① 表や数直線図を用いて、数量の関係性を捉えよう

② 具体物を用いて操作・観察する活動をしよう

・計算で求めた数値と図表、さらに生活場面（速さ・時間・道のり）とをつなぐ活動をしよう。

・実体験をもとにイメージを膨らませ、ICT 機器などを活用しながら深い理解につないでいこう。

④中学校：数学



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています

【よくできていること】
- 回転移動の意味を理解し、図形がどのように移動したかを想像すること
- グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈すること
- 同様に確からしいことに着目し、起こりうる場合の数をもとにして確率を求めること

【課　　題】
- 関数の問題において、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

学びのポイント　　①～④を個々に表現できるようにしていく

① 問題文の中から説明したい内容（求めるもの）を確認する

灯油を使い切るまでの「強」と「弱」の場合のストーブの使用時間の違い

② ２つの変数 x と y が何を表しているかを問題文から読み取る

x ・・・灯油の使用時間（時間）　　y ・・・灯油の残量（L）

③ 求めるものと x, y との関係性を式やグラフで整理する

「灯油を使い切る」とは、式として、グラフとして何を表すか　　数学的表現
- 式：$y=0$ のこと
  ⇒「強」・「弱」それぞれの式で、$y=0$ のときの x の値を求める
- グラフ：y 座標が０になっているところ
  ⇒「強」・「弱」それぞれのグラフで、y 座標が０のときの x 座標を読み取る

④ ③をもとに求め方を説明する

式またはグラフで分かった「強」・「弱」のそれぞれの x の値の差を求める
（③の表現とあわせて説明文を完成させる）

※日常生活の中で、一次関数を活用して問題解決できるよさを実感していくことも大切

⑤ 三田の子どもたちの学習や生活に対する意識・実態について

～児童生徒質問紙調査の結果と教科調査とのクロス集計分析より～

『生活・学習習慣』『学ぶ意欲』『自尊感情』の視点から

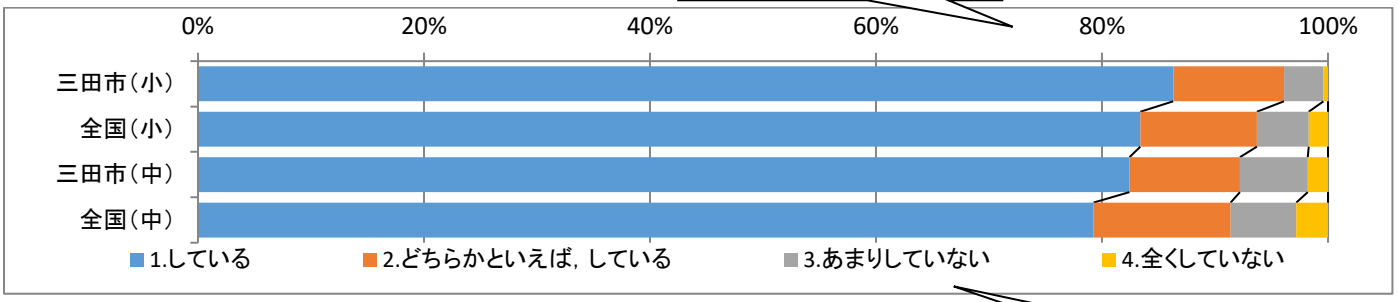
児童生徒質問調査については、全国値との比較、小中学校の値の比較から、三田市の特徴や課題を分析します。視点は、これまでと同様に『生活・学習習慣』『学ぶ意欲』『自尊感情』です。

また、平均正答率上位層と下位層の回答内訳から、生活・学習習慣改善へのアプローチを分析します。

1「生活・学習習慣」と学力

Q1. 朝食を毎日食べていますか

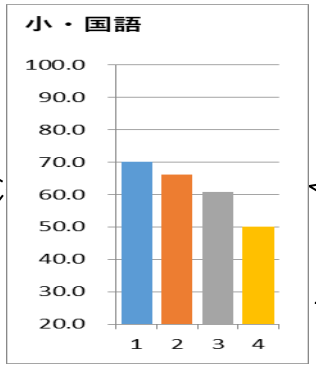
質問紙調査　回答比率



＜各教科正答率とのクロス集計＞

質問紙調査　回答

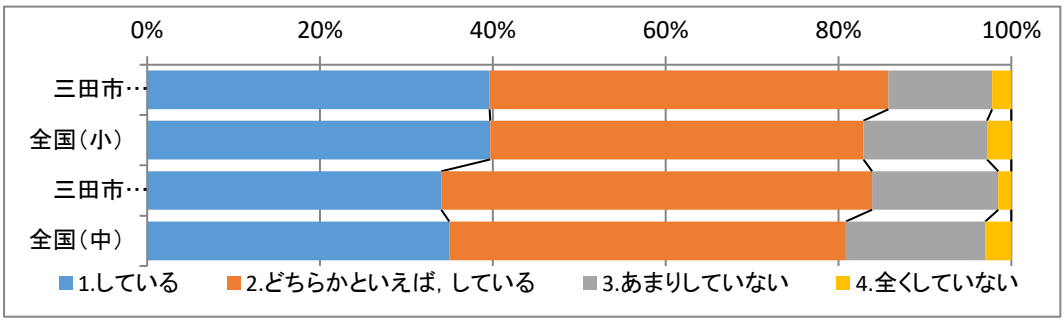
教科調査平均正答率

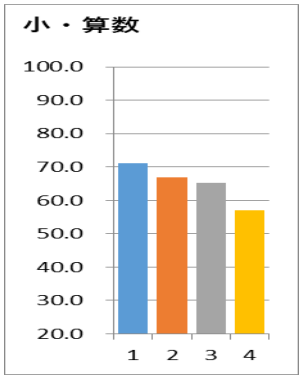


質問に対する回答者の教科の平均正答率をグラフにしたものです。左のグラフでは､「朝食を毎日食べていますか。」の質問に対して『１．している』と回答した児童の平均正答率が約７０％であることを表しています。このグラフでは、質問に対して肯定的に答えた児童の正答率が高い傾向にあることから、規則正しい生活をすることと正答率に相関関係があることが分かります。

質問紙調査回答番号

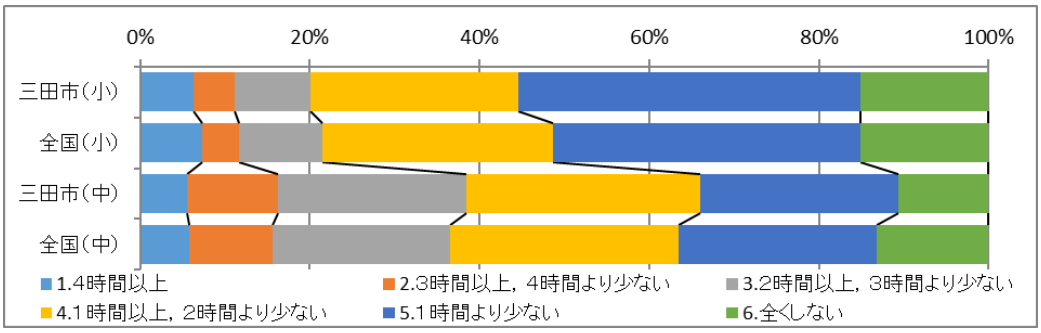
Q2.毎日､同じくらいの時刻に寝ていますか

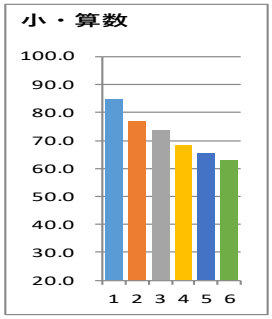




○今回の調査からも、生活習慣を整えることが学力向上の要因の一つとなることが表れています。
○中学生になると規則的な生活習慣の確立は小学生の頃よりやや難しくなっています。
○基本的生活習慣の確立を図るためには、児童生徒が自己の生活習慣を振り返ったり、家庭と学校が連携して児童生徒の生活習慣作りをサポートしたりする取組が大切です。

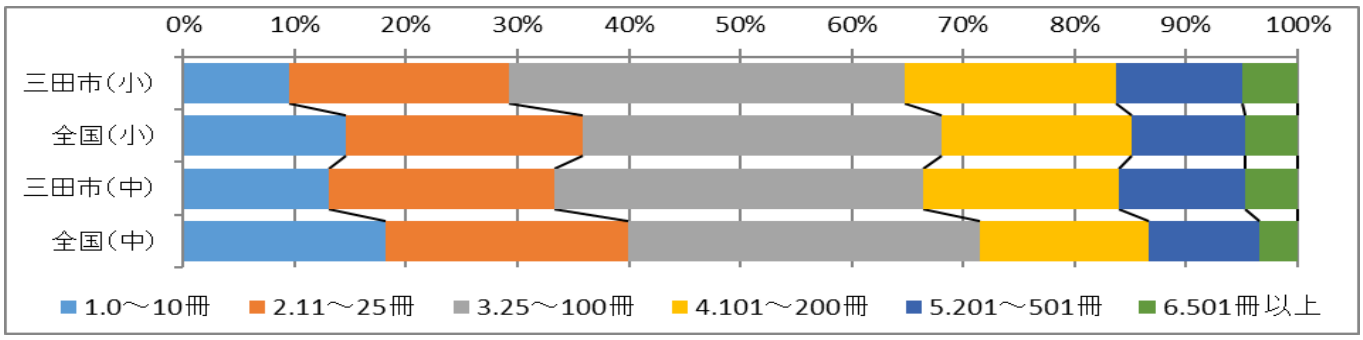
Q22. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

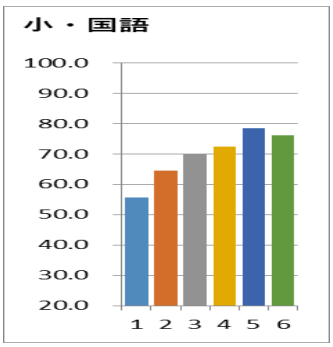


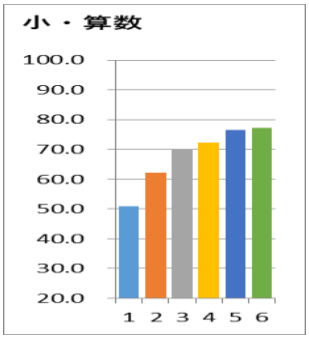


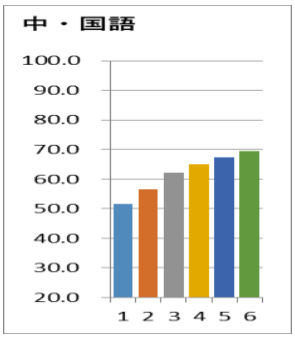
○授業時間以外や休みの日に勉強している時間が２時間以上と回答している児童生徒の正答率は、高い傾向にあります。
○小学校５年生全員に配布している『ひとり学びへの手引き』を今年度は、小中学生は１人１台端末でも閲覧できるようにしています。「やるべきことに優先順位をつけること」、「勉強時間を十分に確保すること」など、学校や家庭において、児童生徒の家庭学習を促すように働きかけることが大切です。
○児童生徒の家庭学習に対して、学校や家庭でその努力を認め励ますなど、児童生徒が自信をもって学習に取り組めるよう支援するとともに、児童生徒が自分にあった勉強方法や学習習慣を身につけていくことが望まれます。

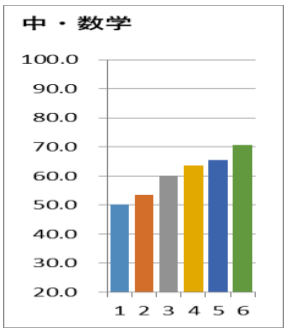
Q23. あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）











○**「家にはどれくらいの本がありますか」**という問いに対して、２５冊以上と回答した児童生徒は、小学生中学生ともに、国語、算数・数学の正答率が高い結果でした。家庭での書籍や新聞などを読む習慣は、学力向上につながっていくので、引き続き学校と家庭と連携していくことが大切です。
○三田市では、小学校中学校における学校司書の配置や学校図書館の充実、読書タイムの設定等の取組を行っています。今後も継続して読書活動の充実を図ることにより、読書の楽しさを伝え、読書習慣の確立につなげます。

2 「学ぶ意欲」と学力

学習指導要領の総則において、「言語能力」、「問題発見・解決能力」、「情報活用能力（情報モラルを含む。）」等が学習の基盤となる資質・能力として示されています。『主体的・対話的で深い学び』のある授業の実現により、こうした資質・能力を育てていくことが求められています。

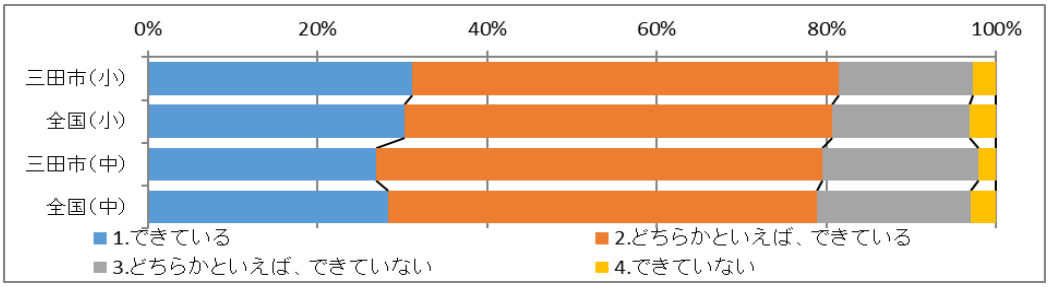
『主体的・対話的で深い学びの実現の視点からの授業改善』について

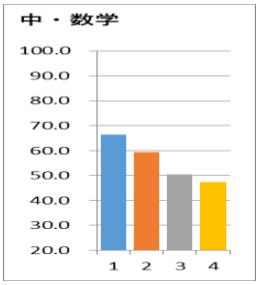
【主体的な学び】… 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次の学習につなげる。
【対話的な学び】… 子ども同士の対話、子どもと教員、子どもと地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図ることによって、自己の考えを広げ深める。
【深い学び】 … 学びの過程（習得→活用→探究）の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

ここでは、「学ぶ意欲と学力」について、『主体的・対話的で深い学び』の視点から、児童生徒質問調査について分析します。

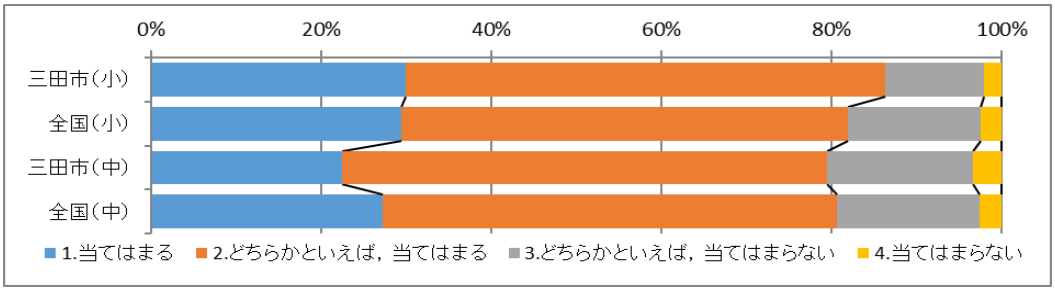
【主体的な学び】の視点から

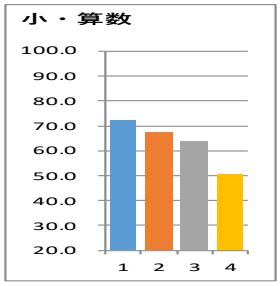
Q20. 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



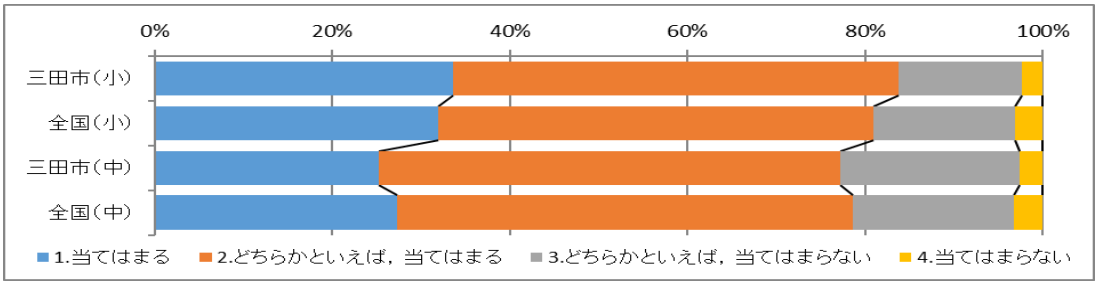


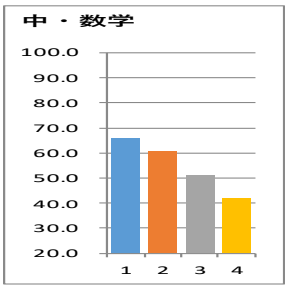
Q30. 昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか





Q34. 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。





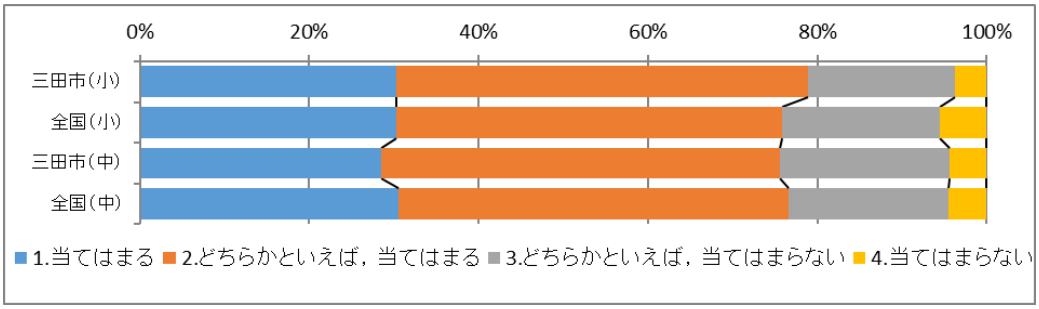
見通しを持って課題に取り組んだり、学んだことを他の学習に生かしたりすることを意識しよう

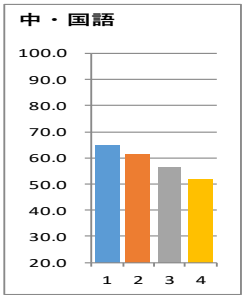
○**「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた」**と肯定的に回答した児童生徒は、小学生 86.2%（全国 81.9%）中学生 79.5%（全国 80.3%）です。課題に対して主体的に考え、見通しを持ち解決しようとする力を、他の教科等の学習に活かしていくことが大切です。

○**「学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」**の問いにおいて、肯定的に回答している児童生徒の正答率が高いことが分かります。

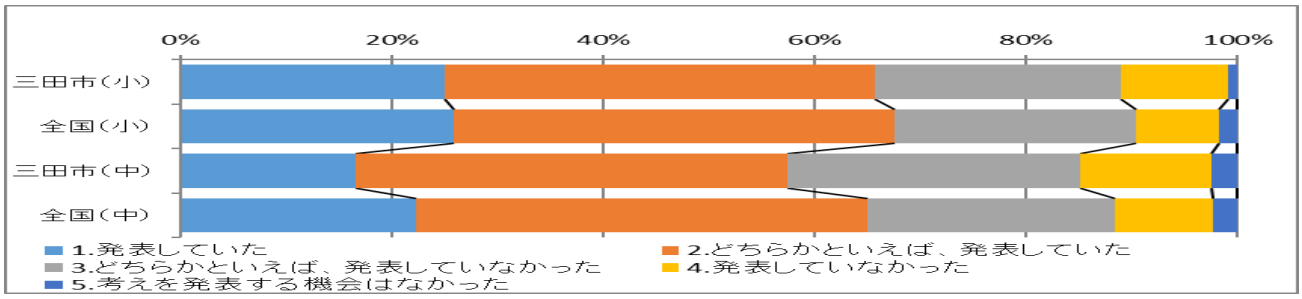
【対話的な学び】の視点から

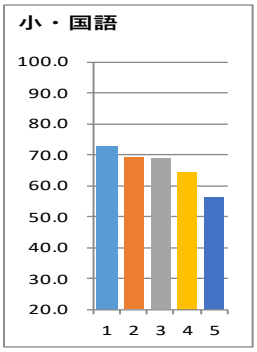
Q17.自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

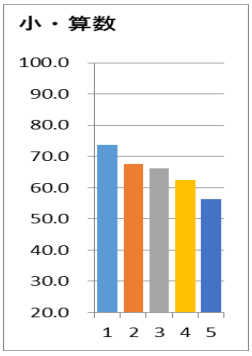


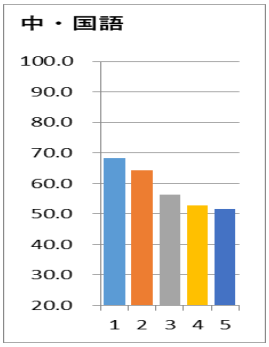


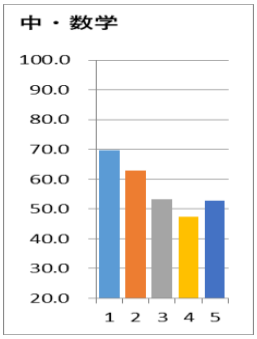
Q29.昨年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



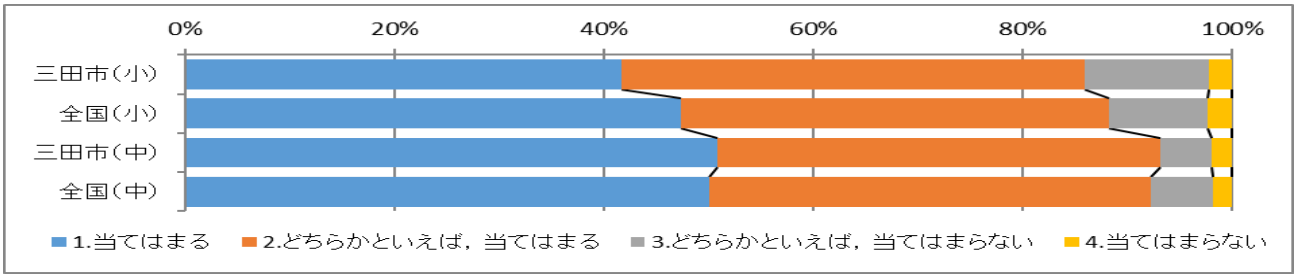








Q41.道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



対話を通して論理的に考えたり批判的に考えたりする力、自分の考えを深める力を身につけよう

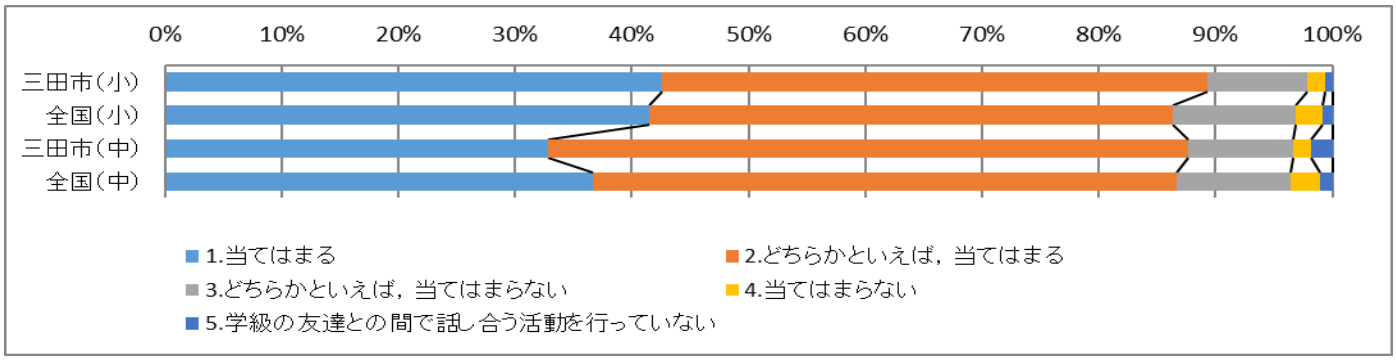
○**「自分の意見と違う意見について、考えるのは楽しいと思いますか」**では、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答している児童生徒の正解率が高いことが分かります。

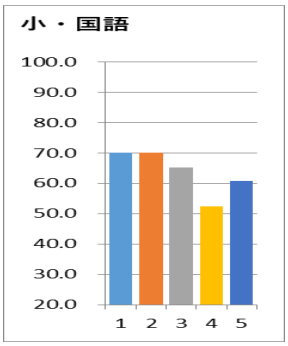
○**「昨年度までの授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」**で肯定的な回答では、小学生 65.7%（全国 67.6%）は全国平均とほぼ同程度の結果でしたが、中学生 57.5%（全国 64.8%）は少し低い結果でした。しかし、小学生中学生ともに肯定的な回答をした生徒の正答率は高くなっています。他者へ自分の考えを論理的に分かりやすく伝える表現方法の工夫が重要です。

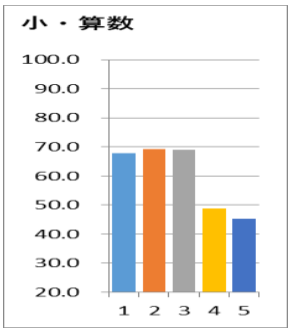
○**「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」**では、肯定的な回答をした児童生徒は小学生 85.8%（全国 88.2%）中学生 92.4%（全国 91.7%）肯定的な回答が 90%前後と高くなっています。自分の考えを論理的に他者に伝えたり、グループや学級で話し合ったりする活動の充実が大切となります。

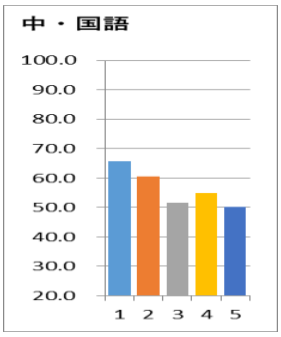
【深い学び】の視点から

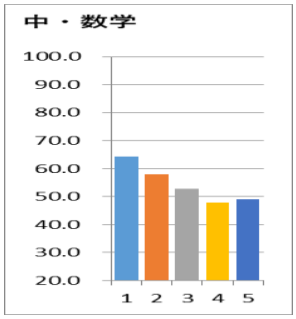
Q33.学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか











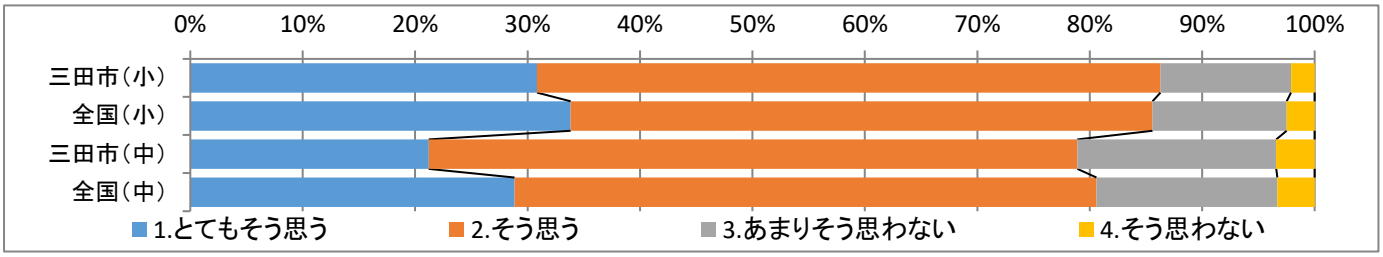
目的に応じて情報を選択したり関連付けたりして、理由を明確にして自己の考えを表現しよう

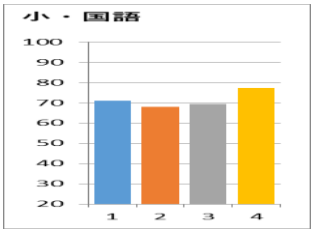
○**「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることはできていますか」**の問いに、肯定的な回答をした児童生徒は、小学生 89.3%（全国 86.3%）中学生 87.6%（全国 86.1%）と良好な結果です。課題解決の過程を説明したりするなど自己の考えを深め広げる事が学力向上において大切であると考えます。

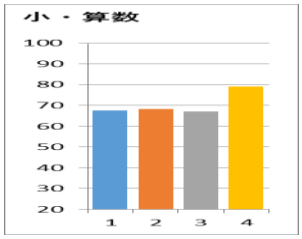
○学級での話し合い活動が、児童生徒の学びを深化させるための重要な要素です。「深い学び」とは、単なる知識の習得にとどまらず、知識を自分自身の経験や価値観と関連づけ、他者との対話を通じて新たな視点や理解を得るプロセスを指します。そのため、友達との話し合い活動は深い学びを促進するための取組が大切です。

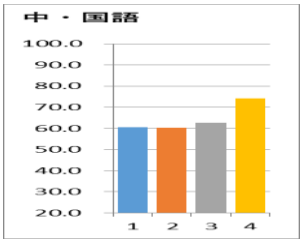
【タブレットの活用】の視点から

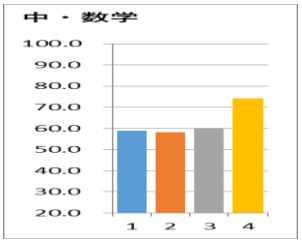
Q28. 昨年度までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。



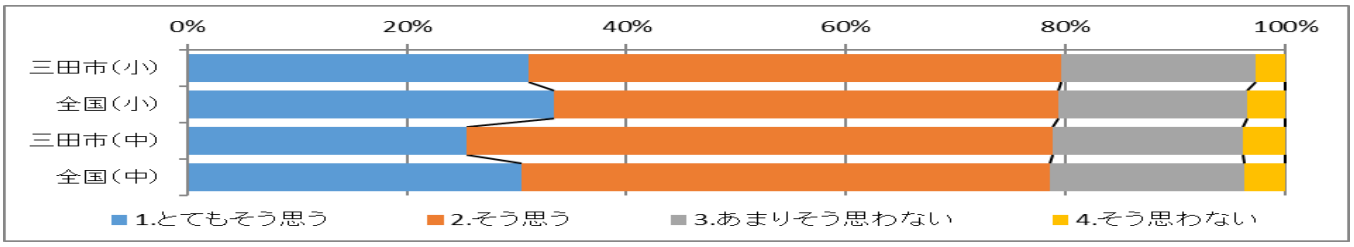




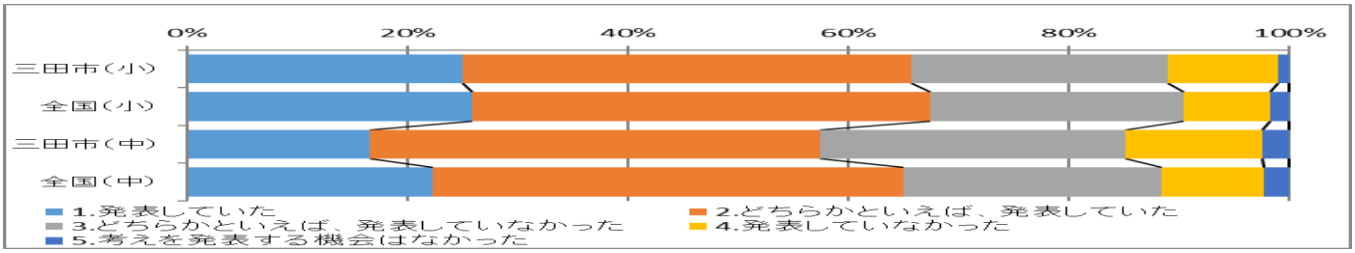




Q28. 昨年度までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。



Q29. 昨年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか〈再掲〉



学びの内容や理解度が深い児童生徒ほど、話し合いの意義を感じていると言えます。逆に言えば、学習に課題を抱える児童生徒への支援を強化し、全員が有意義な話し合い活動を経験できるよう授業改善を図ることが大切となります。ICT を活用することで、互いの意見を視覚的に示し、対話で生まれた新たな考えを共同編集にて資料にまとめたりする活動が展開できることにより、どの子も分かる、参加できる授業になると考えられます。各教科等の特性に応じて適切な学習場面で引き続き ICT を活用することが重要です。

〇三田市では、AI を搭載したデジタルドリルを導入しており、児童生徒は、学校や家庭で利用できるようにしています。AI デジタルドリルでは、問題を解くと瞬時に正誤判定がされ、それぞれの回答状況により、その子に応じた問題が出題されます。また、取組状況の結果から、自分の得意苦手を児童生徒自身も把握できます。教員は、デジタルの環境をうまく学習に取り入れ、自らの学びの調整に役立てられるよう指導することがポイントとなってきます。デジタルドリルを効果的に活用し、基礎基本の徹底、応用問題への対応力を楽しみながら学習する習慣を身に付けることで、一人ひとりの興味や能力に応じた学習が可能になります。これにより理解度が深まり主体的に学ぶ意欲、学力の向上につながります。

〇ICT を活用し、文章を編集する作業を通して自分の考えを整理して表現することができます。また、図や表などを効果的に示すことにより、他者に分かりやすい発表につながります。友達の多様な意見に触れることで自分の考えとの相違点や類似点に気づいたり、自分の意見を明らかにしたりする学習環境となります。児童生徒は意見の異なる他者との対話を楽しみながら学習することにより、さらなる学力向上や主体的・対話的で深い学びにつなげることができます。

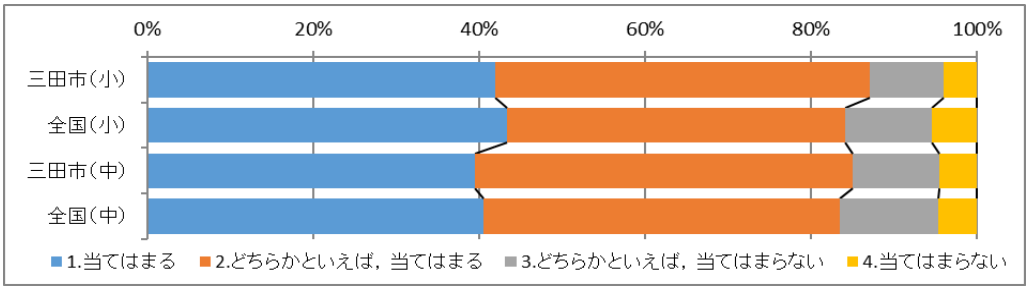
３「自尊感情」と学力

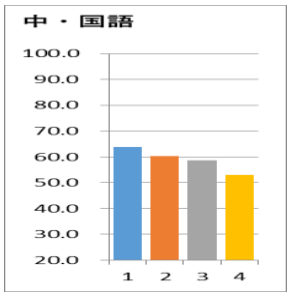
今、学んでいること、頑張っていることが未来の「自分」につながっている、そんな気づきを通して、児童生徒が学習への向き合い方や人間関係作り、社会とのつながりについて考えていくことが大切です。

ここでは児童生徒を取り巻く教育環境の観点から、自尊感情・キャリア教育、人や社会とのつながり、学校生活に関連する項目を分析します。

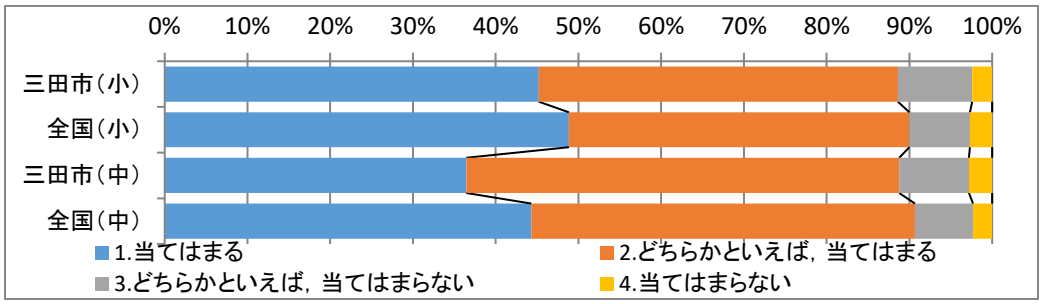
自尊感情・キャリア教育の視点から

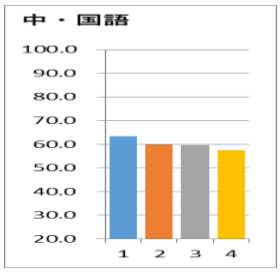
Q９．自分には、よいところがあると思いますか



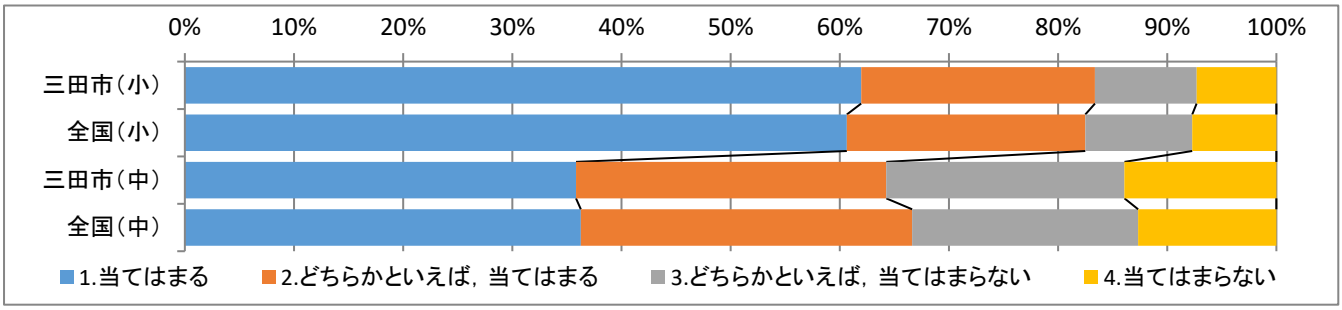


Q10 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか





Q11．将来の夢や目標を持っていますか



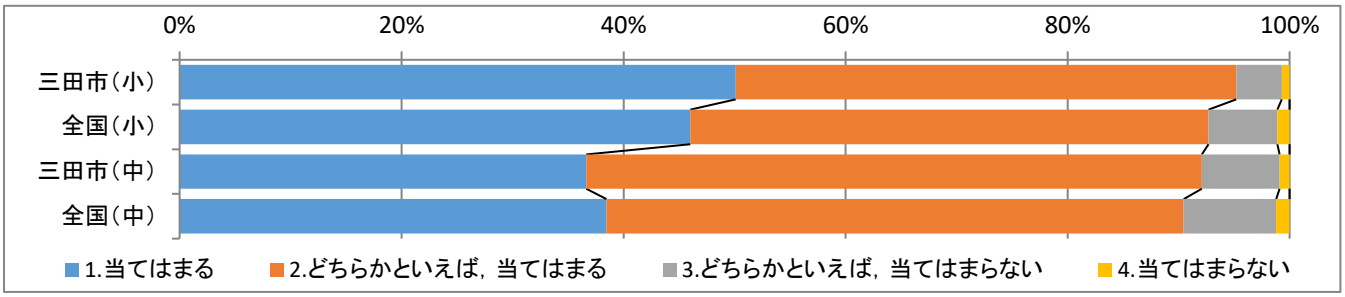
○**「自分にはよいところがある」**と肯定的に回答した割合は、小学校 87.1％（全国 84.1％）、中学校 84.9％（全国 83.3％）で、全国平均と大きな差は見られませんが、R5（三田市：小学校 85.8％、中学校 81.7％）と比較して、小学校では 1.3 ポイント、中学校では 3.2 ポイント上回っています。

○**「先生はあなたのよいところを認めてくれている」**と肯定的に回答した割合は、小学校 88.6％（全国 89.9％）、中学校 88.4％（全国90.4％）で、全国平均と大きな差は見られませんでした。

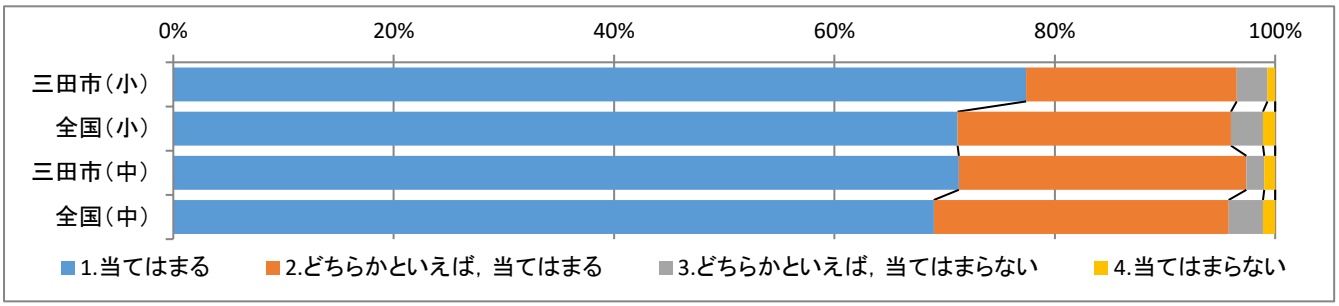
○自尊感情の項目について、改善の傾向が見られます。子どもたちは、周囲から自分のよさや成長を認められることで、自分のよさや可能性を認識し、自ら挑戦しようとする意欲を高めていきます。今後も継続して、子どもの良さを認め励ます声かけを、学校と家庭、地域が連携して行い、子どもたちの自己肯定感を向上させ、子どもたち自身が自分のよさや可能性を認識し、将来の夢や目標につなげられるようにしていくことが大切です。

人や社会とのつながりの視点から

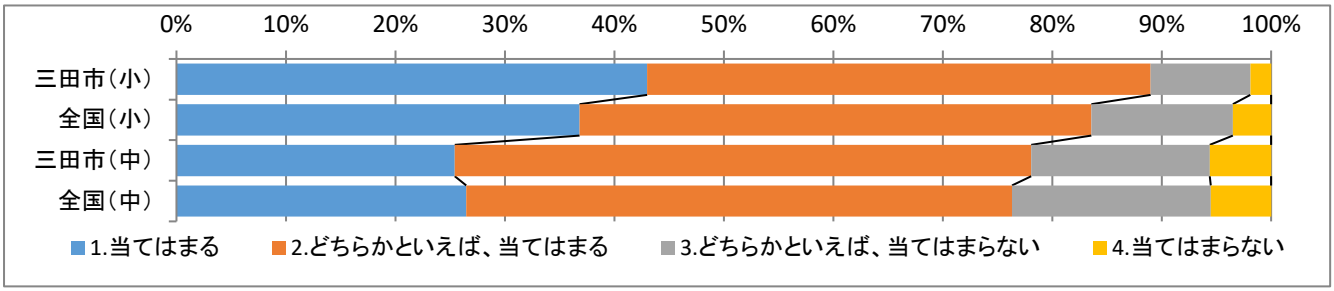
Q12.人が困っているときは、進んで助けていますか



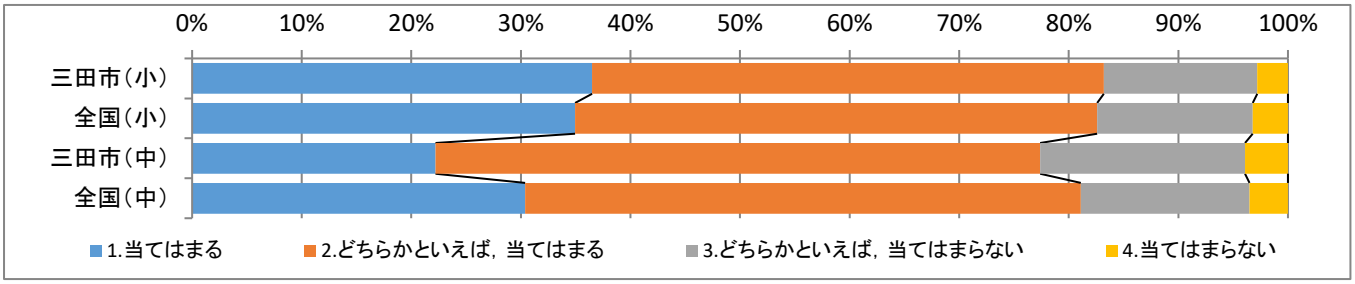
Q15.人の役に立つ人間になりたいと思いますか



Q25.地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



Q40.学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか



地域や学校の中で、人や社会とのつながりを深めながら、考えや思いを発信する力を育てよう

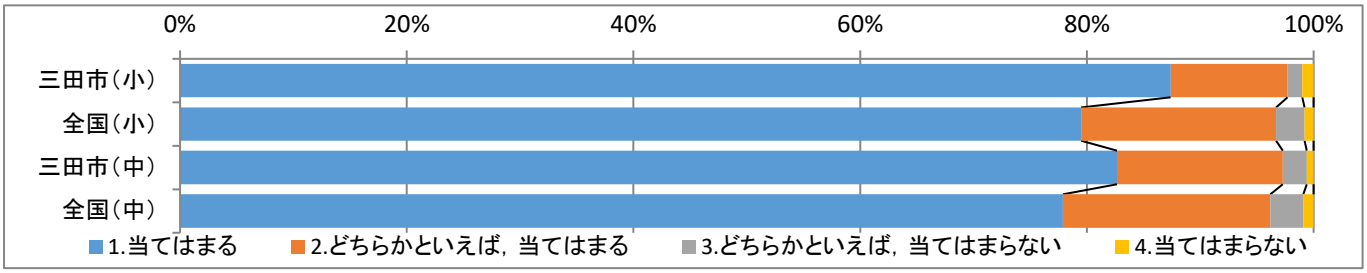
○**「人が困っているときは、進んで助けていますか」**では、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生95.1%（全国92.7%）中学生92%（全国90.2%）で、人のために行動しようとする意識はとても高いです。

○**「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」**や**「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」**は肯定的に回答した児童生徒の割合が全国より高い状況です。しかし、**「今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」**の回答では少し低い結果です。人のためや社会に貢献する意識は高いですが、自分の目標設定をして行動することに苦手意識を持っている生徒が見られます。

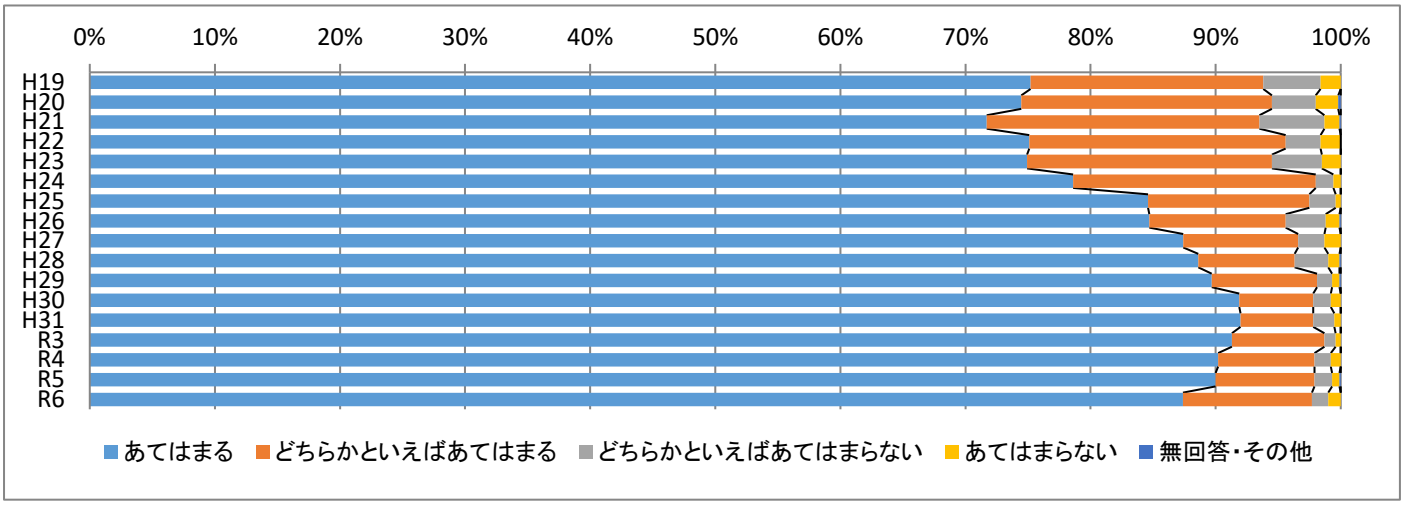
○子どもたちが多様な人や社会とのつながりを通して成長していけるように、学校、家庭、地域の連携を深めていきましょう。

学校生活の視点から

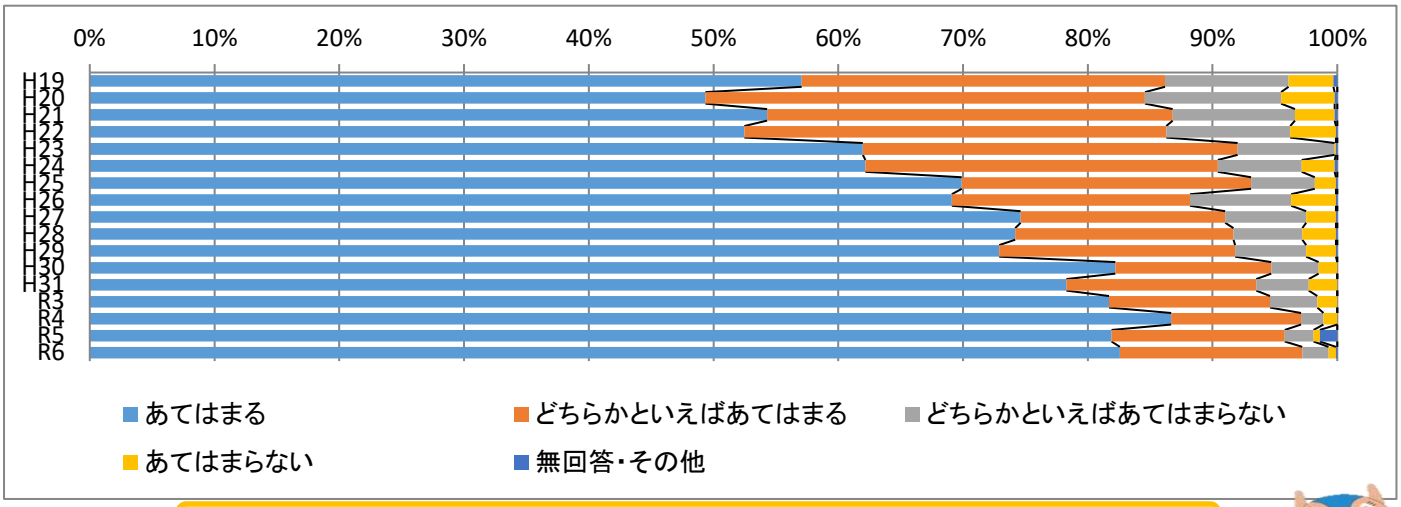
Q13.いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



＜小学校＞



＜中学校＞



『見逃すな！いじめの芽　咲かせよう！笑顔の花』　三田市立中学校生徒会

○**「学校に行くのは楽しい」**と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で 83.1％（全国 84.8％）、中学校で 84.4％（全国 83.8％）で、昨年度から小学校では 4.3 ポイント、中学校では 0.7 ポイント上回っています。引き続き、学校と家庭、地域が連携して子どもたちを見守り、学校が子どもたち一人一人にとって、安心して人とつながったり、学習したりする場となるようにすることが重要です。

○**「いじめはどんな理由があってもいけない」**と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で 97.6 ％（全国 96.7％）、中学校で 97.1％（全国 95.7％）でした。いじめはどんな理由があろうとあってはいけないことを理解し、行動で示していけるよう、一人一人の個性や多様性を認め合い、尊重し合う気持ちを日々の生活をとおして子どもたちに育むことが大切です。自分の考えや気持ちを身近な人に伝えることができたり、他者の思いなどを共有したりしながら、自分自身も他者も大切にできる人を育てていきましょう。